

京都市立西京高校の理念 及び SGH取組の成果

京都市立西京高等学校

副校長 岩佐 峰之

西京高校の理念

平成15年**エンタープライジング科**設立

平成16年附属中学校併設（中高一貫教育スタート）

これまでの伝統の上に**新たな価値**を付加する。

教育理念

「21世紀を創造する**グローバルリーダー**の育成」

校是 「**進取・敢為・独創**」

現在17期生が入学。

西京高校の理念

平成15年～24年

- ・ **第1ステージ**（1期生～10期生）

経済センスの育成，継続教育の追求。

平成25年～

- ・ **第2ステージ**（11期生～）

社会人力の育成（社会で活躍，貢献するために）

平成27年度～31年度**SGH**指定

京都市立西京高等学校SGH研究開発構想名（H27～31） エンタープライジングなグローバルリーダー育成プログラムの開発

エンタープライジングなグローバルリーダーとは

自ら進んで行動し、あえて困難に挑戦し新たな価値を創造する(本校ではエンタープライジングと呼ぶ)気質を持ち、多様な文化やさまざまな価値観を知識・実体験の両面から自らのものとし、論理的に新たな価値を生み出そうとする姿勢をもち、高い志と真摯な姿勢をもとにグローバルな視点で行動できる人材

グローバルリーダーとして身につけさせたい能力

「主体的思考」「自律的思考」

能力① 物事を「問題化」する力

能力② ビッグデータの時代に備えた真の情報活用能力

課題研究
テーマ「アジアの環境」

能力③ 異文化=他者を受け入れ、これに応える力

能力④ 確かな知識、教養

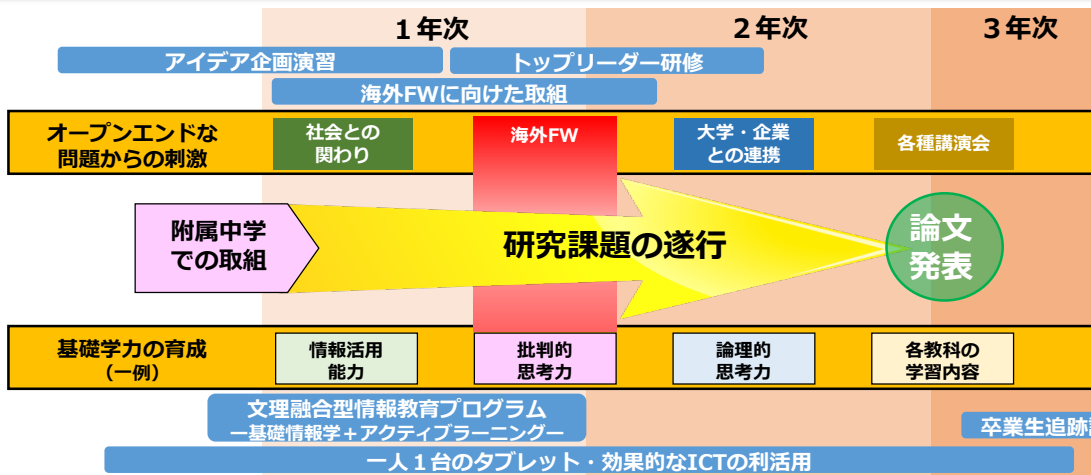
異質な文化=他者との「出会い」

「出会い」から見える「課題=問題化」する

「問題化された」問題を「深化」させる

一定の解決を対置し他者に「説明」する

他者に「継承」する



評価

評価方法の研究

- ・SGH CAN-DOリストの作成
- ・卒業生の追跡調査
- ・SGH運営指導委員会の開催

成果の還元

ASEAN Ecological Summitの開催
本研究で育成したグローバルリーダーによる国際サミットを平成31年度に開催し、課題研究の成果を発表する。

SGHの軸となる取組

総合的な学習の時間「エンタープライズ(EP)」

EP1(1年次1単位)

EP2(2年次2単位)

アイデア企画演習

4~5月
身の周りの
不便な
もの・こと
分析

6~7月
日本の
ポップカル
チャー分析

1st STAGE

海外FWの取組

9~2月
コース別
活動

3月
海外
FW

5月
海外
FW
発表会

2nd STAGE

課題研究

6月
ゼミ
分け

7~2月
ゼミ
活動

3月
課題研究
発表会

3rd STAGE

海外フィールドワークの取組

平成25年度入学生（11期生）から

海外フィールドワーク（**選択制**）を導入

行き先（7コース）

シンガポール, マレーシア, タイ, ベトナム・カンボジア,
インドネシア, 上海, グアム

希望制ではなく選択制

「どこに行く」ではなく「何をする」のか

海外フィールドワークの取組

目的

- **独立自尊**の精神

人に頼らずに自分の力だけで事を行う
自己の人格・尊厳を保ち自身の品格を保つ

- **異文化交流**
(日本ではできない体験)

- 視野を広げる一助とする
(**非日常**が日常である世界を知る)

海外フィールドワークの取組

そもそもなぜ海外に行かなければならないのか。

高校時代に身につけたい力とは？

日本(自分)を知り, 他国(他者)を受容する。

⇒今の自分をいかに変容させることができるのか？

海外フィールドワークの取組を通して

日本の価値観で

すべてをはかることは

できないことを

体験的に知ることができる。

海外フィールドワークの取組を通して

テーマ(課題)を設定してFWを実施

疑問を検証する体験

⇒ **レポートの作成・コース間交流
(FW発表会)**

⇒ **SGHの課題研究へ**

海外フィールドワーク：年間スケジュール

5月 **海外FW委員会**発足

6月 クラス別発表会，教員プレゼン

7月 エントリーシート提出，コース決定

9～12月

現地調査の内容，調査方法の検討

1～2月 学校交流内容の設定等

3月 海外FW実施5泊6日

海外FW委員会の取組

- ・ クラス別発表会・パスポート取得
- ・ 現地調査に向けて。授業構築の参画へ。

・ 部署別取組

①生活②FW③交流④しおり (事前学習)

本番に向けての意識付け

⇒ **当事者意識**の涵養









Kedatangan Delegation

歡迎貴校
師生來校訪問
—— 12月

歡迎貴校師生來校訪問

VIEGA

VIEGA



SGHの軸となる取組

総合的な学習の時間「エンタープライズ(EP)」

EP1(1年次1単位)

EP2(2年次2単位)

アイデア企画演習

海外FWの取組

課題研究

4~5月
身の周りの
不便な
もの・こと
分析

6~7月
日本の
ポップカル
チャー分析

9~2月
コース別
活動

3月
海外
FW

5月
海外
FW
発表会

"AES"

6月
ゼミ
分け

7~2月
ゼミ
活動

3月
課題研究
発表会

1st STAGE

2nd STAGE

3rd STAGE

ゼミに所属してグループで論文作成

(2年生6月～3月)

“アジアの環境”に関連する

問い(テーマ)を立て

〇〇学の視点からアプローチして

問いに対する解を見出す

SGH課題研究の概要

- 2年生の総合学習(EP2・金曜6~7限)で実施
- **ゼミ**に分かれて**グループ研究**(H29~個人研究も可)

- 人文科学ゼミ (哲学・思想・文学)
- 情報学ゼミ (情報・メディア・心理)
- 社会科学ゼミ (地理・歴史・社会学)
- 経済学ゼミ (経済・経営)
- 国際学ゼミ (国際文化・政治・地球環境)
- 健康科学ゼミ (栄養・食・医薬)
- 生命科学ゼミ (生物学・農学・化学)
- 環境科学ゼミ (工学・産業・技術)

- 各ゼミ約35人を10班程度に分けて活動
- 各ゼミ教員4名+TA2名が担当

H28~
新設

ゼミ活動：TA(大学生・院生)によるアドバイス



ゼミ活動：TA(大学生・院生)によるアドバイス



学術 研究活動とは？

発見 発表 論文を書く

研究経歴とは発見発表の積み重ね

新規性の高い発見によって研究対象の理解が一段と進歩・進展する

研究活動が続行できるために、相当する高い評価がえられることが必要



京都市植物園でのフィールドワーク(生命科学ゼミ)



NHK京都放送局訪問(情報学ゼミ)



人間はAIとどのように関わっていくべきか

—望ましい人間・AI融合社会の構築—

(2年2組41番) (2年2組41番)

(2年4組4番) (2年4組10番)

京都市立西京高等学校

近年のコンピュータの発展は目覚ましく、2045年には人工知能(AI)が人間の能力を超えると言われる。これは、「シンギュラリティ」という問題として知られているが、本当にAIが人間を超えることがあるのだろうか。私は、AIの特長について種々の文献を調べ、人間機械論として有名なサイバネティクス理論などを用いて考察した結果、AIは人間の脅威にはならないという結論に達した。その結果をもとに、望ましい人間とAIの関わる未来社会についての提案を行いたい。今後は、私たちの提案する未来社会を私たちの手で具体的にどう実現していくかが課題である。

第1章 序論

1.1 背景

近年のAIの技術の発展とともに、私たちの周りでは、人間がAIに負け、乗っ取られるといったニュースを耳にすることが増えた。もし実際にこのようなことが起こればそれは非常に恐ろしいことだが、本当にそれは起こりうるのだろうか。私たちの班では、AIが人間を超えるということについて考えることで、そのことが本当に起こりうるのか、そしてその先私たちはAIとともにどのように生きていくべきなのかについて考察する。

1.2 目的

人間とAIの現在の関係やAIの能力について理解し、これから先AIがどのように発展し私たちの生活にどのように関わっていくかを予測する。

1.3 本論文の構成

本論文の構成を次に示す。

2章では、AIのこれまでの発展に関する調査のあと、これからどのように発展していくかを予測している。

3章では、人間と機械の違いについてサイバネティクス理論などを用いながら考察し、その違いから人間と機械ではそれぞれどのような分野が得意なのかについて考察している。

4章では、職業ごとにAIと人間のどちらを行う方がより効率的かについて考え、そこから人間とAIがどのように職業を分担すればよいかについて考察している。

5章では、人間がAIと関わっていくうえでどのようなこと

について注意が必要があるか、さまざまな視点から述べている。

6章では、3章や4章で述べた役割の分担や5章で述べられた注意点を踏まえて、人間とAIの共存の方法についてこの班における結論を述べている。

1.4 用語の定義 (1) (2)

論文に出てくる用語の定義をする。

・AI (人工知能): 人間の脳が行っている知的な作業をコンピュータで模倣したソフトウェアやシステム。
・シンギュラリティ (技術的特異点): コンピュータがある時点で人間を超え、開発と進化の主体が人間からコンピュータに移るといふ考え。

・サイバネティクス: 生物と機械における通信、制御、情報処理の問題を統一して取り扱う統合科学。詳しくは5章で説明。

・2045年問題 (特異点問題): 2045年にシンギュラリティが起こるという予測があり、それによって起こるさまざまな問題のこと。

・機械学習: 人間が子供の頃から行っているような学習の手順を、コンピュータで行うための技術。ビッグデータを解析し、アプリケーションで利用できるルールや原則を抽出する。

・ビッグデータ: 実社会やウェブ上に存在する大量のデータ。

・ディープラーニング: 機械学習の一つで、ニューラルネットワークの構造をより深くし、複雑な問題を高い精度で解けるようにする試み。

・ニューラルネットワーク: 人間の脳網を構成する神経回路網を人

工的に再現したネットワーク。

・自然言語処理: 人間が日常生活で使っている言葉を、そのままコンピュータに入力して処理する技術。

・ベイズ推定: 数学者トーマス・ベイズが考案した確率理論。

最初に適当に決めた確率 (事前確率) に実験や測定の結果を反映させてより正確な確率 (事後確率) を得ようという考え。

・強いAI: AIは単なる解析ツールに、人間と同じく汎用の知性を備え、さらには人間のような意識や精神さえも育すようになるという考え。

・自律システム: システムの要素の相互作用におけるルールが内部で決められているシステム。詳しくは5章で説明。

・他律システム: 外部から前もって与えられたプログラム、ルールに忠実に従って出力をするシステム。詳しくは5章で説明。

・パラメータ: コンピュータで、プログラムを実行する際に設定する指示事項。

第2章 シンギュラリティとAIの発展

2.1 背景・目的

「自ら学んで進化するAI」は従来のビジネスモデルを覆すと言われている。更に、2045年にはAIが人間の知能を超えてしまうという仮説も唱えられている。そして、それを作り出した人間が制御しきれなくなり、危険性を帯びてしまう。本論文では、AIの発達と今後の人間の関係に対して、シンギュラリティの観点から考察する。まず2.2節のはじめにシンギュラリティとは何かを説明し、次にシンギュラリティに関する先行研究とAI技術のこれまでの発展の過程をまとめる。それらを踏まえ、2.5節で今後のAIの発展がどのように進んでいくのかを考察する。

2.2 シンギュラリティとAIの発展の歴史

1.シンギュラリティとは

まず最初にシンギュラリティとは何かについて説明する。アメリカのコンピュータ研究者であるレイ・カーツワイル氏は、コンピュータ・テクノロジーの進歩は指数関数的であると述べている。[6]こうしたコンピュータの加速度的な進歩が進み続けると、2045年にコンピュータが人類全体の能力をはるかに超え、それより先はコンピュータの行く末を人間が予測できなくなるという仮説が、欧米を中心に真剣に議論されている。この時点のことを「技術的特異点」という。

「特異点(シンギュラリティ=Singularity)」は、もともとアインシュタインが唱えた一般相対性理論や数学の概念で、いくつかの変数が無限大になるのが特異点である。一般相対性理論の場合、方程式が破綻するような時空間を特異点という。つまり、方程式が破綻するということは、その向こうに何があるのかは、原理的に予測できない。つまり、カーツワイル氏の仮説によると、コンピュータが技術的特異点を超えると、人類はその後のコンピュータの進化を予測できない。カーツワイル氏は特異点についての仮説を展開するうえで、「収穫加速の法則(The Law of Accelerating Returns)」を唱えている。収穫加速の法則とは、一つの重要な発明はほかの発明と結びつき、重要な発明の登場までの期間を短縮し、新しい技術の発明までの速度を加速することにより、科学技術は直線グラフではなく、指数関数的に進歩するという法則である。[4]つまり、宇宙のあらゆる現象において、加速度的にものごとが進歩するということは、何か革命的な出来事が起こる間隔が急速に縮まっているということである。つまり、時間の進み方が加速する。具体的に宇宙の進化の例を参考に、地球は約45億年前に誕生したが、生命が生まれたのは30~40億年前である。私たち人間が今見ようようないわゆる生物が生まれたのは5億数千万年前、恐竜が滅んだのが6500万年前、直立二足歩行をする猿人が生まれたのが400~500万年前、人類が文明を始めたのが、氷期が終わる、間氷期に入ったおよそ1万年前である。その後人類は爆発的な進化を遂げていき、農業が始まっておよそ5000年前ごろに文明ができる。ギリシア文明はおおよそ5000年前に成立し、産業革命がイギリスで起こったのは約200年前、無線通信ができたのが20世紀の初頭、現在のタイプのコンピュータができたのが約60年前、インターネットが生まれたのが約20年前である。最近では、iPhoneができたのが8年前で、モデルチェンジは一年または半年に一回のペースである。このように、技術的または文明的な進歩が加速度的に展開を繰り返していることをカーツワイル氏は「収穫加速の法則」と呼んでいる。このままカーツワイル氏が唱える技術の進歩が進み続けられ、技術的特異点に達する。そこに達するのが2045年ごろになるとカーツワイル氏は予測している。そこで、コンピュータが技術的特異点に到達したときに起こる問題を「特異点問題」とあるいは「2045年問題」という。特異点を肯定的に捉え、その実現のために活動する人々がいる一方、特

MBS) to recruit new employees

king for SMBs in Kyoto?

panies in Japan. This is high even among OECD
e global economy. However, SMBs are facing one
s.

nd of employees do SMBs need?

ommunication

Interview at
ETRO (201

e Japan

by at

COF

entice all

er

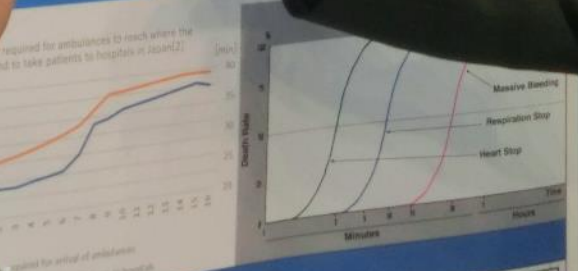
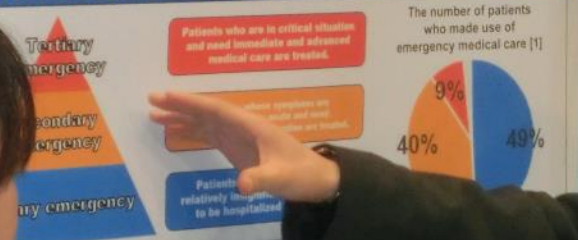
Sunday
2018.12.15

Problems of Japanese emergency medical treatment system and suggestions to reform present situation

2724 Kyoto Municipal Saikyo High School NOH Yeji KISHIRO Akane KATAOKA Shinnosuke

Objective	Methods
How can we reduce the time until an ambulance reaches a site and take the patients to be treated in the hospital?	<ul style="list-style-type: none">• Interviewing the executives of the Kyoto Fire Department• Actual proof from Nagoya Fire Department

Analysis of Present Situation



and Discussion

System in an ambulance

高専学校

80-8

84-8

SGH

28

文部科学省主催 SGH全国高校生フォーラムへの参加

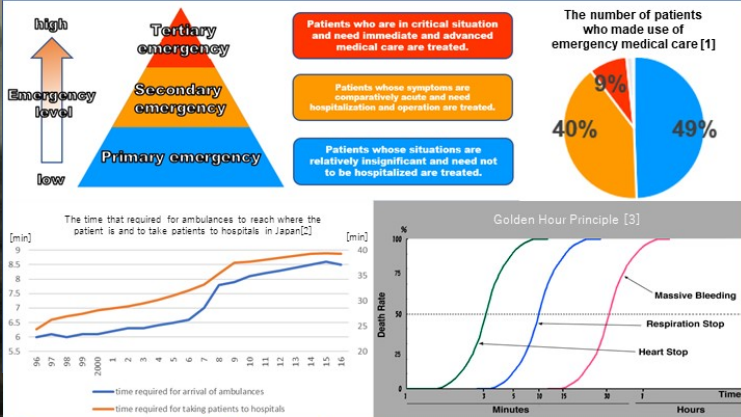


Problems of Japanese emergency medical treatment system and suggestions to reform present situation

2724 Kyoto Municipal Saikyo High School NOH Yeji KISHIRO Akane KATAOKA Shinnosuke

Objective	Methods
How can we reduce the time until an ambulance reaches a site and take the patients to be treated in the hospital?	<ul style="list-style-type: none"> Interviewing the executives of the Kyoto Fire Department Actual proof from Nagoya Fire Department

Analysis of Present Situation



Proposals and Discussion

Ai Navigation System in an ambulance
 Showing the best route to carry patients by calculating and predicting the road condition using AI

Controlling System & Switching to the specially-colored light bar
 Controlling the traffic light to immediately go to where the patient is. Switching to the special light bar to let people know the urgency.

Quick Appointment System
 Quickly making an appointment to the available hospital. Analyzing the disease of patients using the big data.

References [1] Japanese Red Cross Society [2] Ministry of health / Ministry of International Affairs and Communications (The Fire Defense Agency) [3] Ministry of Health, Labour and Welfare (The Fire Defense Agency)

ASEAN Ecological Summit について

平成31年度に海外の大学生,高校生,
研究者, 企業人等を京都に招き

ASEAN Ecological Summit を開催

2019年5月24~25日に開催・海外提携校の参加

本研究で育成したグローバルリーダーによる
国際サミット

ASEAN Ecological Summit について



- 大テーマ：
「国の発展に伴い、私たちの幸せはどう変化してきたか」
- 分野別テーマ(3分科会)：
 - 国の発展に伴う環境問題は幸せの代償か？
 - 誰が／何が幸せを感じるのか？—自覚している幸せと自覚していない幸せ
 - インターネット社会における人間関係の希薄化について
- 会議当日に向けた準備：
 - 遠隔会議システムを用いた議論，3月のFW時の訪問，等







SGH中間評価結果（文部科学省H29.9.29）

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、
一層努力することが必要と判断される

- **物事を「問題化」する能力の獲得を目指した特徴的な事業**であり、**レベルの高い課題研究**を通して当初の目的は果たされつつある。
- しかし、**育みたい資質・能力についての校内の共通理解が十分に醸成されていない**点や**実践される多様なプログラムの体系性に弱さが残る**点は今後改善が必要である。
- なお、研究内容を目標に照らしてリンクさせたり、評価のため複数のデータを複合的にまとめたりすることで、各プログラムが拡散的にならないよう確認しつつ、着実な研究姿勢を期待する。

H30年度に主に取り組んだ課題(H31継続)

● 育みたい資質・能力についての校内の共通理解

- 教育プログラムの体系化・整理
- 特に海外FWプログラムの内容刷新と各教科と総学(EP)の連携強化

● エビデンスに基づいた目標からの評価

- 複数データを複合的にまとめるトライアングレーション
(量的研究と質的研究を並行して行い、それぞれの方法論の強みと弱みを補完し合い研究精度を上げていく方法論的アプローチ)
- 大学等(教育評価の専門家)との連携

生きて働く基礎的な知識・技能

英語運用能力

地域社会の直面する問題の理解

日本語運用能力

国民が直面する問題の理解

ICTリテラシー

問題解決に必要な思考力・判断力・表現力等グローバルな
問題の理解分析力や
問題解決能力

情報活用能力

異文化の人々に
関する知識数理的
能力

論理的思考力

意思決定力

学びに向かう力学びを人生や社会に生かす人間性等

メタ認知能力

多角的に
捉える力人生と
キャリア設計将来の夢を
自ら見つける力今の自分を
超えよう
とする力

文章表現力

批判的
思考力個人と社会に
おける責任地域と国際社会
での市民性創造力と
イノベーションプレゼンテーション
能力協力して物事を
遂行する能力

リーダーシップの能力

異文化の人々と
協力する能力

人間関係構築力

時間の
有効活用力

管理機関の主な取組・支援（1/2）

① 「海外交流アドバイザー」業務に係る非常勤講師の任用

- ・ 管理機関を雇用主として、非常勤講師を1名任用（週27時間）。
- ・ 通常授業に加え、海外機関との連絡交渉、課題研究に関する講演者の調整、ティーチングアシスタント（TA）との連絡調整等を担当。
（平成30年度実績：約95万円）

② 「海外研修教員引率旅費」「生徒補助費」の市負担

- ・ 海外研修における教員旅費及び、保護者の世帯年収等に応じて旅費の一部を市が負担。（平成30年度実績：約450万円）
- ・ 家庭の経済状況に左右されず、希望する全ての生徒が海外研修に参加し、課題研究を行うことが可能。

管理機関の主な取組・支援（2/2）

③ 「ASEAN Ecological Summit」開催に係る旅費の市負担

- ・SGHの集大成として、令和元年5月に開催した同会議の開催にあたり、京都に招聘した海外4か国5校の生徒ら（計10名）の旅費等を市が負担。（令和元年実績：約165万円）

④ 成果普及のための取組とその成果

- ・ホームページや学校案内等の広報物でSGHの取組成果等を周知。
- ・更に、海外留学（長期・短期）への費用補助や文部科学省事業「トビタテ留学JAPAN」への積極的な応募を促した結果、平成30年度では、西京高校4名を含む過去最多の11名が市立高校から採用。西京高校の取組が、市立高校生全体の国際意識への機運の向上に寄与。

SGH成果と課題

1. 探究活動を通して
身につけさせたい資質能力を
明確にし、学びに対する動機
付けを行うことができた。

大学入試改革で激変! ソニー復活の虚実
20年ぶりの絶好調は本物か

Weekly Toyo Keizai 週刊 東洋経済 2017 7/29 定価690円



これから伸びる
中学・高校

センター試験廃止で新テストはこうなる／

思考力を鍛える新興の高校 多摩科学技術、横浜サイエンスフロンティア、広尾学園／
入学後に力がつく「お買い得」な中高一貫校 京華、城北、帝京大学中高、八雲学園

■ 東大推薦・京大特色入試
合格者数ランキング

順位	所在地	公立/私立	学校名	推薦/特色入試	東大	京大
1	京都	市立	西京	6	0	6
2	東京	私立	広尾学園	4	2	2
	大阪	府立	天王寺	4	0	4
	広島	県立	広島	4	2	2
5	東京	私立	開成	3	1	2
	東京	私立	渋谷教育学園渋谷	3	2	1
	東京	国立	東京学芸大学附属	3	1	2
	長野	県立	長野	3	2	1
	京都	府立	洛北	3	1	2
	大阪	私立	大阪星光学院	3	1	2
	大阪	私立	大塚桐蔭	3	0	3
12	北海道	私立	立命館慶祥	2	0	2
	富城	県立	仙台二華	2	0	2
	茨城	県立	土浦第一	2	1	1
	埼玉	県立	浦和	2	1	1
	東京	私立	麻布	2	1	1
	東京	私立	女子学院	2	0	2
	東京	国立	筑波大学附属	2	2	0
	東京	国立	東京学芸大学附属 国際中等教育	2	0	2
	東京	都立	日比谷	2	1	1
	東京	私立	武蔵	2	1	1
	石川	県立	金沢東丘	2	1	1
	岐阜	県立	岐阜	2	1	1
	愛知	私立	海陽中等教育	2	1	1
	京都	私立	京都女子	2	0	2
	京都	私立	洛星	2	1	1
	大阪	府立	北野	2	0	2
			神戸大学附属 中等教育	2	1	1
	兵庫	私立	漣	2	1	1
	奈良	私立	東大寺学園	2	0	2
	奈良	私立	西大学園	2	1	1
	岡山	県立	岡山岡山	2	1	1
	山口	県立	宇部	2	1	1
	福岡	私立	久留米大附設	2	1	1
	鹿児島	県立	甲南	2	1	1

大学入試改革の狙いは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の推薦入試や京都大学の特色入試では、その力を測る選考が行われている。今年の東大工学部推薦入試の小論文課題を見てみよう。

「ルネサンス期に欧州に大きな社会的変革をもたらした『天変・羅針盤・活版印刷機』は三つ大発明と呼ばれる。なぜそう呼ばれているかを考察した後、2050年ごろまでに期待する三つの技術革新を挙げ、その相乗効果がもたらす社会的変革を説明せよ。」

の知識を活用しながら解答を導き出す必要がある。求められるのは「深い学び」。それを身に付ける手法として注目されているのが、アクティブ学習や討論、発表など、生徒が能動的に学習することを指す。A.L.に優れた学校だと考えられるのが「スーパーグローバルハイ

スクール(SGH)」「スーパーサイエンスハイスクール(SHS)」だ。SGHは国際的に活躍できる人材を育成する高校、SHSは理数教育を重点的に行う高校として文部科学省が指定し、A.L.を推進推薦入試合格者7人のうち6人がSGH、SHS出身だった。

「深い学び」が身に付くのはここだ

求められるアクティブ・ラーニング

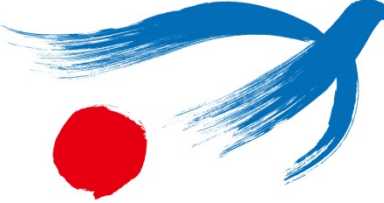
PART 2 4年後も安心できる 高校

(注) 大学通信と「サンデー毎日」、『週刊朝日』の合同調査による判明分。非公表や未集計もあり、掲載した人数よりも合格者が多いことがある (協力) 大学通信

そこで43/45にSGHとSHSの指定と東大推薦入試京大特色入試の合格者数を組み合わせた「アクティブ・ラーニング」に強い高校を掲載した。ぜひ参考にしてほしい。(本誌・中島順一郎)

SGH成果と課題

2. **探究活動を通して
挑戦する勇気**を与える環境を、
提供することができる学校に変
容している。



トビタテ!
留学JAPAN

その経験が、未来の自信。

「トビタテ! 留学JAPAN」は、2014年から
スタートした官民協働で取り組む海外留学支援制
度です。
今年度西京から7名の合格者を輩出!
全国公立校2位。



SGH成果と課題

**3. 探究活動を通して
学びのプロとして、教員が
さらに高い専門性を重視し教育活
動を行う集団へと変化している。**

全校体制での取組

探究活動に係る教員80%以上

- ・ TAとの協働作業による満足度が高い
- ・ 外部協力者の必要性

海外FW付添経験者 60%以上

- ・ 国際理解が深まる

SGH成果と課題

課題

- ・ 成果の還元をどのようにするのか。
- ・ 最終年度のまとめに向けて。

SGH終了後のビジョン

- ・ そもそも事業設計の際、大きく教育課程を変えていない。H25年から教育課程を変更し、それを確かなものになっている。予算の大部分は、TA謝金に使用している。TA謝金に関して、今後必要な予算は京都市に対し予算要求を予定。

SGH終了後のビジョン

- ・ 課題研究の手法は、確立してきた。AESを通して教科（英語科）と総合的な探究の時間とのクロスカリキュラムが完成。

新教育課程作成へ！